

【学年】 6 年	【教科・単元】 体育「ハンドボール」 【めあて】 めあて1・・・実践を通して、ゲームのルール、自分のチームを知り、技術を身に付けながらゲームを楽しむ。 めあて2・・・自分のチームにあった作戦や、相手チームにあわせた作戦を考え、ゲームを楽しむ。 【実践内容】 ・オリエンテーリングを通して、お互い（個人）のレベルを知る。その後自分たちでチーム分けをする。 ・試合をしていくにあたって、ルールの確認をする。（中学校、高校へつなげられるようにしたいという教師の考えを伝え、本物のルールに近いものでやりたいかどうか子どもたちに確認する。） ルールは本来の競技の特徴から、大きくずれないものを最初のルールとし、細かいルールは、ゲームをしていくなかで、子どもたちが決めていく。 ・めあて1では、色々なチームと試合をする中で、ルールの確認、そして技術の部分を丁寧に扱いながら、指導する。 ・めあて2では、めあて1での成績を参考に、同じレベルのチームどうしに分け、試合をする。作戦カードを使い、自分のチームのよいところをより生かし、相手チームにあった戦い方ができるようにする。また、チームにあった練習ができるように、練習方法をチームごとにアドバイスする。 ・最後にトーナメント戦をする。 （知的好奇心について） 自分たちでチームを決め、チーム名を決めたり、チームでの役割を決めたりすることで、チームに愛着を持てると考えた。また、めあて2では、何回も同じ相手と対戦することで、「他のチームとも戦ってみたい」という知的好奇心が生まれると考えた。 【子どもたちの様子・反省】 自分たちでチームを決めることで、そのチームで一生懸命戦おうとする姿勢が見られた。また、チームでの関わり方について、常に声かけをした。そうすることによって、<u>自分たちのチームをよりよくしていこうとする姿</u>が単元を通して見られた。作戦を考えることに慣れていなかったため、<u>どういうものが作戦なのか、分からないチームがほとんどであった。どんな作戦を立てて戦うとよいのか、そのためにどんな練習をしたらよいのか、チームごとのアドバイスがとても重要だと感じた。</u> 単元を通して追っていた子（運動神経が無く、体育が嫌いな子）は、チームのメンバーに励まされたり、教えてもらったりしたことに、嬉しさを感じていた。自分なりに頑張ろうとする姿が、見られるようになっていったことがよかった。 めあて2では、同じチームと戦い続けることで、「嫌だなあ」と言う子もいたが、「他のチームと戦ってみたい」という知的好奇心が生まれた。 同じチームと対戦することで、より相手にあった作戦を立てるだろうと考えたが、実際は「〇〇にはマークを付けた方がよい」程度の作戦しか生まれなかった。（ほとんどが、自分のチーム中心の作戦になっていた。） ルール作りに慣れていなかったため、ルール作りと技術面の指導に時間を多く使ってしまった。一時間での時間配分を、もう一度考えたい。
--	--